京都市

㊶ 松永貞徳柿園跡　京都市東山区下池田町527

「柿園（しえん）」は、俳人・歌人である松永貞徳が80歳になる頃に建てた別荘。83歳で没するまで、雅客を集めて過ごした。現在、京都市立東山泉小中学校西学舎の西北の一角に石碑が残っている。

㊷ 西之大坊大雲寺　京都市伏見区深草宝塔寺山町32

本阿弥光悦筆の書「拾遺和歌集 上春（春興）春は尚 我にて知りぬ 花盛 心長閑 人は在らじな」「源氏物語 須磨」、狩野探幽筆の掛軸「真山水」、狩野尚信・安信・常信の合筆「山水に月図」を所蔵。拝観は予約制。

㊸ 大本山 勧修寺門跡　京都市山科区勧修寺仁王堂町27-6

襖絵「近江八景図」は、土佐派の絵師・土佐光起の作。「瀬田の唐橋」「堅田の落雁」などが色鮮やかに描かれる。隣の間の襖絵「竜田川紅葉図」は、光起の息子で絵師の土佐光成が手がけた。いずれも重要文化財・非公開。

㊹ 別格本山 理性院　京都市伏見区醍醐東大路町21

客殿の障壁画は絵師・狩野探幽の作。水墨を主体として山水が描かれ、点在する人物などに淡彩が施されている。18歳のころの作とされ、二条城障壁画などで有名な「探幽様式」はまだ見られない。非公開寺院。

㊺ 総本山醍醐寺　京都市伏見区醍醐東大路町22

俵屋宗達の作「舞楽図屏風」「扇面散図屏風」を所蔵している。「芦鴨図衝立」は、もとは床（とこ）の壁にはられていた墨画を、衝立に改装したものと伝わる。いずれも重要文化財で境内の「霊宝館」に収められている（通常非公開）。

亀岡市

㊻ 法常寺　京都府亀岡市畑野町千ヶ畑藤垣内1

開山の一絲文守は都から離れた山里で後水尾上皇、近衛信尋らと交流を続けた。一絲が進覧した山居詩10編に、上皇が末尾の文字を主題にした10首の和歌と序文を送った「紙本墨書後水尾天皇宸翰（一絲和尚山居詩並御次韻和歌）」は国の重要文化財。拝観は予約制。

八幡市

㊼ 石清水八幡宮　八幡市八幡高坊30

現在の社殿（国宝）は寛永11（1634）年に徳川家光が再建したもの。「寛永の三筆」の一人・松花堂昭乗は、自らが住職を務めた「瀧本坊」に、武士・茶人の小堀遠州と共に茶室「閑雲軒」を造った（茶室は1773年に焼失。見取り図が残る）。

㊽ 松花堂庭園・美術館　八幡市八幡女郎花43-1

草庵「松花堂」（京都府指定文化財）は、寛永14（1637）年、「寛永の三筆」の一人・松花堂昭乗が石清水八幡宮の住職引退後の住居として建てた。広さ3m四方で、茶室の機能を有する。明治期に現在地に移築。内園は現在特別公開日のみの公開。

京田辺市

㊾ 酬恩庵 一休寺　京都府京田辺市薪里ノ内102

室町時代の禅僧、一休宗純が晩年を過ごしたことで知られる。一休禅師没後、荒廃した方丈を加賀藩3代目藩主前田利常が再興。方丈の襖絵は狩野探幽49歳の作とされる。方丈には複製が設置されているが、京都府指定文化財の「瀟湘八景図」を宝物殿で見ることができる。

寛永文化とは

後水尾天皇は学問を好み、茶の湯や立花などを極めた文化人でもありました。寛永期には後水尾天皇を中心に文化サロンがいくつも形成され、教養と美意識を磨き合いました。後水尾天皇が作り出した階層を越えたサロンで育まれた「寛永文化」は、茶の湯・華・書・画・建築・きもの・陶芸・書物・香など、のちの日本文化に多大な影響を与えています。

寛永文化のアーティストたち

- **安楽庵策伝・あんらくあん さくでん（1554 – 1642）**
誓願寺第五十五世法主。説教に笑いを取り入れ、人々に分かりやすく伝えた。『醒睡笑』を著し、これが落語のネタ本となったことから「落語の祖」といわれる。

- **本阿弥光悦・ほんあみ こうえつ（1558 – 1637）**
「寛永の三筆」に名を連ねる書をはじめ、陶芸で白楽茶碗「不二山」、漆芸で「舟橋蒔絵硯箱」を残すなどマルチに活躍。晩年、幕府から鷹峯に土地を与えられ芸術村「光悦村」を開く。

- **俵屋宗達・たわらや そうたつ（？ – ？）**
17世紀前半に京都で活躍した絵師でのちに琳派の祖と仰がれた。伝統的な大和絵に斬新かつ大胆な構図と鮮やかな彩色を取り入れた。代表作に「風神雷神図屏風」などがある。

- **松永貞徳・まつなが ていとく（1571 – 1654）**
俳人・歌人。貞門俳諧の祖。歌集『逍遊愚抄』のほか、俳諧のきまりを箇条書きにした俳諧式目書『御傘』を慶安4（1651）年に刊行。俳諧の興隆に尽くした。

- **池坊専好（二代）・いけのぼう せんこう（1575 – 1658）**
華道家元池坊32世当主。自然の姿を器の上に表現するいけなばの様式「立花」を大成した。後水尾天皇の宮中立花会に指導的な役割で参加するなど活躍。作品を描いた立花図が残る。

- **千宗旦・せん の そうたん（1578 – 1658）**
茶人で千利休の孫。字は元伯。利休が確立したわび茶を継承し、現在の表千家・裏千家・武者小路千家の礎となる。東福門院や近衛家に茶の湯を指南したとされる。

- **小堀遠州・こぼり えんしゅう（1579 – 1647）**
幕府では伏見奉行を務める。作事奉行として内裏や仙洞御所の造営、二条城の寛永の大改修を手掛け、二の丸庭園を改修。茶人でもあり、遠州の茶は「綺麗さび」と称される。

- **石川丈山・いしかわ じょうざん（1583 – 1672）**
徳川家の譜代家臣の家柄で関ヶ原の戦い、大坂の陣に参加する。隠退後は朱子学や禅を学び、寛永18（1641）年、59歳で詩仙堂を造営。90歳で没するまで漢詩や書、作庭に励んだ。

- **松花堂昭乗・しょうかどう しょうじょう（1584 – 1639）**
石清水八幡宮の社僧で書・絵・画・和歌・茶道に造詣が深い文化人。特に書では瀧本流・松花堂流という書画を確立し、近衛信尹・本阿弥光悦とともに「寛永の三筆」と称される。

- **金森宗和・かなもり そうわ（1584 – 1656）**
飛騨高山城主・金森可重の長男として生まれるが、京都で大徳寺150世・紹印伝双に師事。宗和は僧号。公家・武家の支持を集め、野々村仁清を指導したことでも知られる。

- **野々村仁清・ののむら にんせい（？ – ？）**
陶芸家。美濃の瀬戸で修業し、京都御室仁和寺の門前で窯を開いた。金森宗和の指導で茶器を焼き、本焼きの後で上絵を塗り低めの温度で焼く「色絵陶器」を京焼で初めて完成させた。

- **海北友雪・かいほう ゆうせつ（1598 – 1677）**
絵師。父は絵師の海北友松。春日局によって徳川家光に推挙されて多く用いられるようになる。朝廷や将軍家の御用を務め、晩年は狩野派とともに、御所の障壁画を描いた。

- **狩野探幽・かのう たんゆう（1602 – 1674）**
江戸狩野派を率い、わずか16歳で幕府御用達の絵師に。二条城、大徳寺などの障壁画を手掛けた。余白を生かし、墨の濃淡や線の太さを使い分ける「瀟洒淡白」な様式を生み出した。

- **米川常白・よねかわ じょうはく（？ – 1676）**
香道家。米川流をひらいた。東福門院に香道を指南したと伝わる。組香において、生涯一つも聞き外さなかったと伝わる。

- **土佐光起・とさ みつおき（1617 – 1691）**
承応3（1654）年に朝廷の絵所預職となり、土佐家を再興した絵師。江戸時代の土佐様式を作り上げた。元禄3（1690）年、土佐派の画論書『本朝画法大伝』を著す。

参考：Living History in 京都・二条城 協議会編『京都 二条城と寛永文化』（青幻舎、2022年）

・このMAPは、寛永文化にゆかりの人物や出来事に関わるスポットを掲載したものです　・掲載スポットのなかには、常時公開されていないところもあります。事前に確認のうえ、お出かけください

発行：寛永行幸四百年祭実行委員会
（文化庁連携プラットフォーム内）
ホームページ：https://kaneigyoko400.jp/
お問合せ先：info@kaneigyoko400.jp
2026年2月発行

最新情報は公式HP・SNSでチェック！
公式HP　Facebook　Instagram　X

文化庁

本イベントは、文化庁 令和7年度「文化資源活用事業費補助金（全国各地の魅力的な文化財活用推進事業）」の補助を受けて実施しています。

令和の京都も
“寛永”文化の花ざかり！

寛永文化ゆかりの地マップ
KANEI MAP

寛永文化 MAP 第2弾！

WEBでもマップをご覧いただけます

寛永行幸四百年祭実行委員会

寛永行幸

❶ 三千院門跡　京都市左京区大原来迎院町540

客殿の池泉観賞式庭園「聚碧園」は、茶人・金森宗和が修築したと伝わる。山際の地形をいかして上下二段式になっている東側とは対照的に、南側には円形とひょうたん形の池が広がり、名前の通り青々とした木々が彩る。

❷ 実相院門跡　京都市左京区岩倉上蔵町121

大玄関の杉戸絵「竹に虎」「松に藤」は狩野派絵師によって描かれたもの。同院門主義尊の母・三位の局は後陽成天皇の側室で後水尾天皇と東福門院が岩倉に行啓した。後水尾天皇の宸翰「忍」などゆかりの寺宝も多い（通常非公開）。

❸ 総本山妙満寺　京都市左京区岩倉幡枝町91

俳諧の祖と仰がれる松永貞徳が枯山水庭園「雪の庭」を造営。妙満寺塔頭・成就院の住職が貞徳の門下だったことから寛永6（1629）年11月に俳諧興行「雪の会」が開かれ、「俳諧発祥の地」といわれる。

❹ 光悦寺　京都市北区鷹峯光悦町29

「寛永の三筆」の一人・本阿弥光悦は、徳川家康から鷹峯を拝領し一帯に芸術村を築いた。光悦の死後、屋敷跡に建立された寺院で、「光悦垣」と呼ばれる菱形に組まれた風流な竹垣を見ることができる。

❺ 曼殊院門跡　京都市左京区一乗寺竹ノ内町42

後水尾天皇の従兄弟にあたる良尚法親王が、現在の地に堂宇を移し造営。大書院「十雪の間」、小書院「黄昏の間」などに狩野探幽筆と伝わる障壁画がある。二代池坊專好が皇室や公家に飾られていた立花を記録した「立花図」（重要文化財）を所蔵。

❻ 詩仙堂丈山寺　京都市左京区一乗寺門口町27

武将で文人の石川丈山が寛永18（1641）年に造営した山荘跡で、現在は曹洞宗寺院。丈山と儒学者・林羅山が漢晉唐宋時代の中国の詩人36人を選んで「三十六詩仙」とし、狩野探幽に肖像画を描かせた額が並ぶ「詩仙の間」が名称の由来。

❼ 真珠庵　京都市北区紫野大徳寺町52

「庭玉軒」（重要文化財）は茶人・金森宗和好みの茶室。内露地に蹲踞を設置、外露地ににじり口に向かって丸い飛石を配置し、美しさだけではなく、歩くとき滑らないよう集中力を高めて茶室に入る厳かな雰囲気を演出しているとされる。通常非公開。

❽ 大本山 大徳寺　京都市北区紫野大徳寺町53

大徳寺の百五十六世・江月宗玩は、絵師の狩野探幽と交流があり、寛永12（1635）年に探幽斎の雅号を与えた。法堂（重要文化財）の天井画「雲龍図」は、探幽が35歳の頃（1637年頃）の作。方丈の東庭は小堀遠州の作庭と伝わる。

❾ 聚光院　京都市北区紫野大徳寺町58

千利休が笑嶺宗訢和尚について禅の修行を行ったとされる千家の菩提寺。利休の系譜を引く茶道三千家（表千家・裏千家・武者小路千家）歴代の墓がある。「閑隠席」（重要文化財）は、にじり口上の連子窓と床の間の墨蹟窓のみで、利休好みの簡素な茶室。

❿ 孤篷庵　京都市北区紫野大徳寺町66

茶室「忘筌席」（重要文化財）のにじり口が明り障子で、光が差し込むのが特徴。二重の刈込で水平線を表現し、かつては船岡山を一艘の舟と見立てた借景庭園や、武士・茶人の小堀遠州の故郷を表した「近江八景の庭」がある。すべて遠州作（通常非公開）。

⓫ 鹿苑寺（金閣寺）　京都市北区金閣寺町1

数奇屋造りの茶室「夕佳亭」は、住持・鳳林承章が、茶人・金森宗和に造らせたもの。後水尾天皇献茶の聖跡。現在の建物は明治期の再建であるが、古の姿を残している。床の間にある南天の床柱や萩の違い棚が特徴的。

⓬ 天寧寺　京都市北区天寧寺門前町301

陶工・野々村仁清が手がけた「銹絵水仙文茶碗」（重要文化財、現在は京都国立博物館に寄託）は、茶人・金森宗和が天寧寺におさめた茶道具のうちの一つ。水仙が一輪描かれた宗和好みな作品。敷地内に宗和の墓がある。

⓭ 御霊神社（上御霊神社）　京都市上京区上御霊竪町495

5月の還幸祭で巡幸する神輿は後水尾天皇が下賜した鳳輦を作り替えたもの。また、東福門院の小袖を手掛けた雁金屋の次男・尾形光琳が北側に住んでいた。そこで、光琳の「燕子花図」にちなみ、かつて神社の外堀に見られた燕子花に似た「一八」を近年育てている。

⓮ 本山 本法寺　京都市上京区本法寺前町617

「花唐草文螺鈿経箱」（重要文化財）など、多才な芸術家として知られる本阿弥光悦の美術作品が数多く残る。光悦作と伝わる約200坪の庭は、三箇所の築山で巴紋を表していることから「巴の庭」（国指定名勝）と呼ばれる。

⓯ 今日庵　京都市上京区本法寺前町613

裏千家を代表する茶室で、重要文化財。千家三代元伯宗旦が隠居所として正保3（1646）年に建てたが、天明の大火で焼失。その後再建された。一畳台目という極小空間で構成され、露地には宗旦手植えと伝わる銀杏の大木「宗旦銀杏」がそびえる。一般非公開。

⓰ 不審菴　京都市上京区小川通寺之内上る本法寺前町597

表千家にある三畳台目の茶室。初祖の千利休が大徳寺門前に建てた四畳半の茶室が最初である。現在の不審菴は、4代江岑宗左が父の元伯宗旦と相談して建てたものが原型となっている。「不審菴」の名は「不審花開今日春」という禅語によると伝えられる。一般非公開。

⓱ 妙護国院 三寶寺　京都市右京区鳴滝松本町32

寛永5（1628）年、後水尾天皇の内旨により右大臣・菊亭経季と中納言・今城為尚が創建。茶人・千宗旦の弟子で、茶道宗徧流の流祖である山田宗徧が若い頃、塔頭の涼池院で茶道の奥義を究め茶室「四方庵」を建てた。現在はその跡を示す石碑がある。

⓲ 北野天満宮　京都市上京区馬喰町

室町時代に途絶えていた土佐派を再興した画家・土佐光起が手掛けた「北野天神縁起絵巻（光起本）」（重要文化財）を所蔵（通常非公開）。菅原道真公の幼少期から北野天満宮に祀られるまでの逸話を描いたもの。

⓳ 旧嵯峨御所 大本山大覚寺　京都市右京区嵯峨大沢町4

後水尾天皇から下賜された宸殿を彩る鮮やかな「牡丹図」「紅梅図」や、正寝殿（通常非公開）の水墨画「山水図」など、絵師・狩野山楽筆と伝わる（いずれの建物・障壁画も重要文化財）。庭湖館前の池泉式庭園は、小堀遠州の作庭。

⓴ 近衛邸跡　京都市上京区京都御苑内

五摂家の一つ、摂政や関白を輩出した近衛家の邸宅跡で、京都御苑の北西部に位置する。公家の邸宅の中でも最大規模であったといわれる。江戸時代末に孝明天皇が歌に詠まれるなど糸桜（しだれ桜）の名所で、現在でも約60本が植わっている。

㉑ 京都御所・京都仙洞御所　京都市上京区京都御苑内

立花を好んだ後水尾天皇は宮中や仙洞御所で立花会を催し、二代池坊專好が指導役として参加した。香道家・米川常白は禁裏御用達の紅染商人で、東福門院の香道指南を務めた。京都仙洞御所の庭園は小堀遠州が作庭し、その後、後水尾上皇自身が手を加えたといわれている。

㉒ 御室窯跡（陶工仁清窯址）　京都市右京区御室竪町

御室窯は、陶工・野々村仁清が1640年代に仁和寺門前で開いた。茶人・金森宗和の指導のもと、仁清は茶碗や茶入など数多くの茶道具を製作。色絵付の技法を完成させ、「京焼の祖」ともいわれる。現在、窯のあった場所に石碑がある。

㉓ 麟祥院　京都市右京区花園妙心寺町49

徳川家光の乳母・春日局の菩提寺。御霊屋に祀られた春日局の木像は小堀遠州の作と伝わる。後水尾天皇に謁見した際の姿と推察される春日局像は絵師・狩野探幽の手による。方丈には絵師・海北友雪の「雲龍図」といった水墨画も。非公開寺院。

㉔ 大本山 妙心寺　京都市右京区花園妙心寺町1

どこから見ても目が合うことから「八方睨みの龍」といわれる、法堂（重要文化財）の天井画「雲龍図」で知られる。円相の直径は約12m、幕府の御用絵師も務めた狩野探幽が8年の歳月を費やして完成させた。

㉕ 退蔵院　京都市右京区花園妙心寺町35

海北友雪筆の四幅対の掛軸「四季山水人物図」を所蔵。賛に「読書之楽」とあり、季節とともに読書を楽しむことを詠んだ叙景的詩が記されている。方丈には、狩野了慶作の「鶏訪戴図」「西湖図」などの襖絵（いずれも通常非公開）がある。

㉖ 霊鑑寺門跡　京都市左京区鹿ヶ谷御所ノ段町12

後水尾天皇の皇女・多利宮が創建した尼門跡寺院。絵師・狩野探幽作の掛軸「山水図」（通常非公開）を所蔵している。後水尾天皇が椿を好んだことから庭園には多様な椿が植えられ、「日光（じっこう）椿」は京都市の指定天然記念物。

㉗ くろ谷 金戒光明寺　京都市左京区黒谷町121

「香道中興の祖」と呼ばれる米川常白の墓所がある。常白は、東福門院に香を指南したと伝わる。墓石には戒名「東菴常白居士」が刻まれており、毎年7月中旬には墓前で「常白忌」が行われている。

㉘ 元離宮二条城　京都市中京区二条通堀川西入二条城町541

寛永行幸を前に改修され二の丸御殿（国宝）が現在の姿に。改修にあたった作事奉行の一人が小堀遠州。大広間のダイナミックな松は狩野探幽、黒書院の優美な四季の景色は探幽の弟・尚信の筆と、狩野派が総力を挙げて仕上げた障壁画のうち1016点が重要文化財。

㉙ 大本山 南禅寺　京都市左京区南禅寺福地町

寛永5（1628）年、藤堂高虎が大坂夏の陣で犠牲になった家臣の弔いのため、三門を再建。天井には、狩野探幽と土佐徳悦によって鳳凰や飛天像、人頭鳥身などが極彩色で描かれている。方丈庭園は小堀遠州作と伝わる。

㉚ 金地院　京都市左京区南禅寺福地町86-12

東照宮（重要文化財）の天井の鳴き龍は狩野探幽筆、三十六歌仙の額は土佐光起筆。かつて窓が8つあったことから「八窓席」と呼ばれた茶室（重要文化財）や、鶴島と亀島が向かい合う「鶴亀の庭」（特別名勝）は小堀遠州作と伝わる。

㉛ 総本山 誓願寺　京都市中京区新京極通三条下ル桜之町453

五十五世法主である安楽庵策伝上人は、小堀遠州や松花堂昭乗、松永貞徳らと親交がある茶人・文化人であった。京都所司代板倉重宗の依頼で落語の原型となる滑稽噺を集めた「醒睡笑」を著したことから、「落語の祖」といわれる。

㉜ 頂法寺（六角堂）　京都市中京区堂之前町248

後水尾天皇は立花を大成した三十二世池坊專好（二代專好）を重用し、しばしば宮中で立花会を催した。頂法寺に隣接するいけばな資料館では二代專好が寛永5（1628）年以降に宮中や仙洞御所で立てた作品の記録図「立花之次第九拾三瓶有」（重要文化財）を展示。

㉝ 高台寺　京都市東山区高台寺下河原町526

寛永元（1624）年、建仁寺の三江紹益を中興の祖に迎え、臨済宗の高台寺となる。ねねの甥で木下長嘯子（木下勝俊）愛用の「静形薙刀」「巴形薙刀」が伝わる。「高台寺掌美術館」にて不定期公開。

㉞ 圓徳院（歌仙堂）　京都市東山区下河原町530

高台寺の塔頭寺院で、北政所・ねね、終焉の地。北庭は伏見城の庭を移した。賢庭が作庭、武士・茶人の小堀遠州が手を加えた。歌仙堂には、ねねの甥（兄・木下家定の子）で、「歌聖」と呼ばれた歌人・木下長嘯子（勝俊）が祀られている。

㉟ 春光院（春光禅院）　京都市東山区下河原町531

高台寺開創とともに三江紹益を開山として建立した塔頭寺院。高台院（ねね）、ねねの甥である木下勝俊（木下長嘯子）とその娘（春光院）を祀る。長嘯子は歌人として活躍し、後水尾天皇が勅撰したと伝わる集外三十六歌仙にも名を連ねている。通常非公開寺院。

㊱ 大本山 建仁寺　京都市東山区小松町584

幕府御用儒学者の林羅山が十代の頃、仏教を学んだ記録が残る。国宝の「風神雷神図屏風」（現在は京都国立博物館に寄託。建仁寺では高精細複製作品を展示）は、俵屋宗達の晩年の作。

㊲ 花咲稲荷神社　京都市下京区稲荷町543

俳人・歌人として活躍した松永貞徳の邸宅跡で、邸内にあった鎮守社が現在も残っている。貞徳は、俳諧を庶民に教え、普及させた功績から「俳諧の祖」と呼ばれる。社名は貞徳の号である花咲亭逍遥軒にちなんでいる。

㊳ 西本願寺　京都市下京区堀川通花屋町下ル本願寺門前町

寛永13（1636）年に上棟した御影堂（国宝）は、現存する江戸期の建築物では最大級の規模。書院内の対面所「鴻の間」（国宝・非公開）は寛永年間の造立。黒書院（国宝・非公開）の一の間と二の間、茶室の水墨画は狩野探幽筆。

㊴ 渉成園（枳殻邸）　京都市下京区下珠数屋町通間之町東入東玉水町

東本願寺の飛地境内地で、国指定名勝の庭園。寛永18（1614）年、東本願寺の十三代・宣如上人が徳川家光から土地の寄進を受け、承応2（1653）年に整備。池泉回遊式庭園で、武将・文人であった石川丈山の作庭と伝わる。

㊵ 養源院　京都市東山区三十三間堂廻り町656

杉戸絵「白象図」「唐獅子図」「波と麒麟図」（いずれも重要文化財）など、俵屋宗達の障壁画が残る。「寛永の三筆」の一人・松花堂昭乗が描いた杉戸絵「柏鷹図」「張果老図」（ともに通常非公開）も所蔵。

裏面に続く▶